

嘉島町の災害と対策

● 嘉島町における災害

温暖な気候と平坦な水田地帯で一級河川の緑川、加勢川、御船川及び矢形川に四方を囲まれた本町において想定される災害は、暴風、豪雨、水害、地震にほぼ限定されると言えます。

なかでも、水害との闘いは本町の歴史そのものでありました。また町内の至る所に湧水池が点在する地域であり、加えて熊本市との境を流れる加勢川はその昔、熊本城下を戦略的に守るため、本町側は遊水地帯になるように左岸堤は築かれないうまになっていましたので、雨期になると度々氾濫し、全国的にも稀な水害常習地帯でありました。

特に、昭和28年、昭和57年、昭和63年の出水は大災害となりました。

直近の昭和63年には季節はずれの5月3日に熊本県下全域を襲った集中豪雨が御船川右岸堤防の決壊を引き起こし、本町における最大冠水面積は12km²（町の72%）にも達し、床上浸水240棟、床下浸水350棟という状況でした。

発生日	発生原因	被災市町村	被害状況
昭和28年6月26日	梅雨前線	嘉島町 熊本市	死者 291名 行方不明者 272名 負傷者 557名 家屋全半壊 7,517戸 床上浸水 48,937戸 床下浸水 39,066戸
昭和57年7月24日	梅雨前線	嘉島町	床上浸水 257戸 床下浸水 345戸
昭和63年5月3日	停滞前線	嘉島町	負傷者 1名 床上浸水 240戸 床下浸水 350戸

● 災害の種類

洪水

洪水とは、大雨や雪解け水によって、川の水の量が普段より著しく増えた状態のことをいいます。

河原へ行くと、広い敷地のわりに、細い幅しか水が流れていませんが、それが普段の姿です。ところが川幅いっぱいになり水が押し寄せると広い河原も水の下に沈んでしまいます。このように異常に水が増えた状態を「洪水」といいます。

水害

水害とは、異常に増えた水によっておこされる災害のことで、*1 外水氾濫も *2 内水氾濫も水害とよばれています。

ただし、海水による水害の場合は、高潮災害、津波災害といったよびかたをします。

*1 外水氾濫とは、大雨などによって、川の氾濫、堤防の決壊により川から水があふれ出した状態のことをいいます。

*2 内水氾濫とは、川から水があふれるのではなく、地域内に降った雨がそのままたまってあふれた状態のことをいいます。



昭和63年5月3日 下仲間



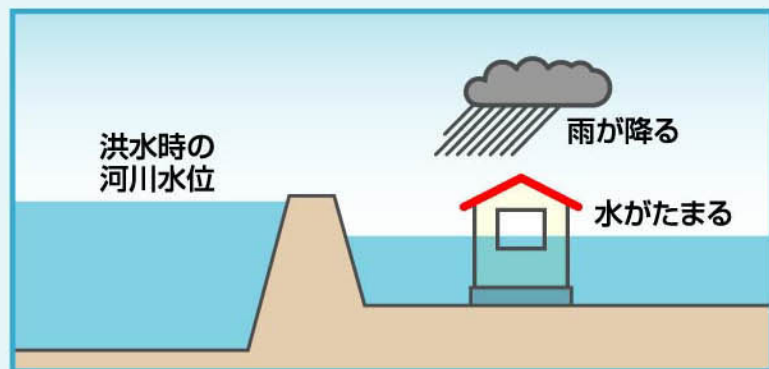
平成9年7月11日(熊本市方面から下仲間を望む)
熊本河川国道事務所提供

● 対策

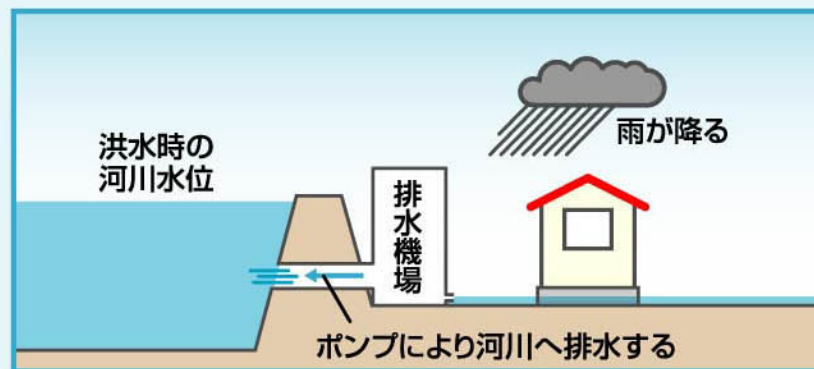
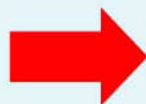
内水対策

内水対策とは下の図のように、洪水時に河川の水位（外水）が上昇すると、堤内の排水ができなくなります。そこでこの内水を強制的に排除するのが内水対策です。

● 排水機場のはたらき



排水機場建設前



排水機場建設後

● 整備済排水機場



嘉島・上仲間排水機場



嘉島・鯉排水機場

